SAGA CITY

知恵と備え 保存版 すぐに取り出せる所に保管して下さい。

佐賀市

内水ハザードマップ

避難地図①

内水ハザードマップ(避難地図)について

この地図は、佐賀市に大規模な内水氾濫をもたらした令和元年8月豪雨に相当する豪雨と大潮が重なった場合の浸水予想結果に基づいて、浸水する範囲とその程度、ならびに各地区の避難所を示した地図です。

近年では集中豪雨や局地的大雨が頻発しており、水害が頻発化・激甚化しています。

水害のおそれがある時には、市から「避難勧告　避難指示(緊急)」、「避難準備・高齢者等避難開始」等の避難情報が出されますので、速やかに避難してください。地域の特性や降雨による排水状況を日頃から把握し、雨の状況等に注意して、危険を感じたら早めに自主的な避難を心がけてください。

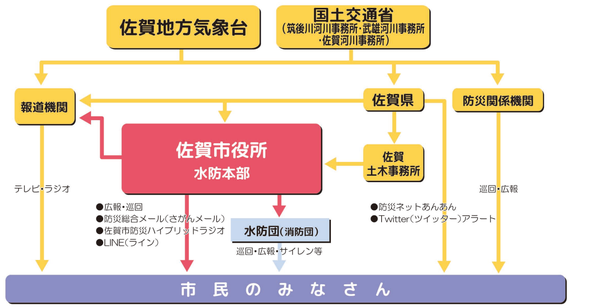
令和2年(2020年)11月作成

災害情報について

日頃から災害情報に注意し、「もしも･･･」の時に備えてください。

気象情報の伝達方法

災害に結びつく重要な気象情報(大雨・洪水警報、大雨・洪水注意報)や、市からの避難情報は、次のとおり伝達されます。



防災・安全・安心情報配信システム

市民のみなさんの安全・安心を確保するための一助として、スマートフォン等のメール機能を使った各種防災情報等を配信するシステムを運用しています。みなさんもぜひ登録して、地域の防災活動や安全・安心の確保に役立てましょう！

「防災総合メール(さがんメール)」 佐賀市配信

佐賀市民の方々に向けて、身近な情報から命に関わる情報までいち早く発信。小学校単位から佐賀市全域まで、細やかな地域設定が可能です。佐賀市LINE公式アカウントでも、「さがんメール」情報の配信を行っています。

スマートフォン等から http://sbss.jp へ、登録手順については、佐賀市ホームページの災害・防災より防災メールをごらん下さい。

さがんメール登録

佐賀市LINE登録

「防災ネットあんあん」 佐賀県配信

県内全域を対象とし、配信情報から一人ひとりにとって必要・不要な情報をできるだけ細やかに設定可能です。

http://esam.jp へアクセスし、表示ガイダンスに従って登録して下さい。

QRコードは(株)デンソーウェーブ登録商標です。

災害時の緊急連絡について

災害時には、多くの人が電話を利用するため、電話が繋がりにくくなります。そのような場合にNTTが設置する「災害用伝言ダイヤル」や「災害用伝言板web171」を利用して家族や友達等との連絡に役立てましょう。

■災害用伝言ダイヤル利用方法

ガイダンスに従って操作

171 をダイヤル → 録音 1 / 再生 2 / 録音 3 (現証番号付き) / 再生 4 (現証番号付き) → 被災地の電話番号(市外局番から) 0952-△△-××××

伝言録音時間: 1伝言あたり30秒以内
伝言保存期間: 提供終了まで
伝言蓄積数: 電話番号あたり1～20伝言
※伝言蓄積率や保存期間等は災害の状況により異なります。

■詳しい情報は、各サービスのホームページにてご確認下さい。

■災害用伝言ダイヤル
https://www.ntt-west.co.jp/dengon/
■災害用伝言板web171
https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/

※携帯電話やNTT以外の通信事業者の電話からのご利用については、ご契約の各通信事業者にお問い合わせ下さい。

インターネットで見る災害情報

気象情報・災害情報をインターネットで見られます！

気象情報や災害情報を知るには、テレビやラジオのほか、インターネットでも知ることができます。放送時間が決まっていないため、知りたい時にいつでも情報を得られる利点もあります。

防災情報関係ホームページ

佐賀県 •「防災・減災さが」→避難情報・土砂災害警戒情報等。 https://www.pref.saga.lg.jp/bousai/	**佐賀市** •「佐賀市防災情報」→緊急情報や防災・減災に役立つ情報等。 http://sagacity-bousai.jp/
国土交通省筑後川河川事務所 •防災情報→河川状況の観測カメラ映像等。 http://www.qsr.mlit.go.jp/chiku.go/	**国土交通省武雄河川事務所** •防災インフォメーション→リアルタイム情報・事前情報等。 http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/
国土交通省佐賀河川事務所 •防災情報→河川状況の観測カメラ映像等。 http://www.qsr.mlit.go.jp/saga/	**国土交通省防災情報提供センター** •「川の防災情報」→リアルタイム雨量等。 https://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/
国土交通省「川の防災情報」 •国土交通省の雨量、水位等の防災情報ホームページ。 https://www.river.go.jp	**佐賀地方気象台** •警報、注意報や気象観測資料等。 https://www.jma-net.go.jp/saga/

雨量の目安

やや強い雨(1時間に10～20mmの雨)
地面からの跳ね返りで足元がぬれます。地面一面に水たまりができ、雨の音で話し声が良く聞き取れなくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。

強い雨(1時間に20～30mmの雨)
土砂降りの雨。傘をさしていてもぬれてしまうほどの雨です。側溝があふれ、小さい河川なら氾濫の心配もあります。

激しい雨(1時間に30～50mmの雨)
バケツをひっくり返したように降る激しい雨です。道路が川のようになります。避難の準備が必要です。

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。
危険な状態になる前に自分で判断し避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう！！

非常に激しい雨(1時間に50～80mmの雨)
滝のように降り、水しぶきであたりの一面が白っぽくなり、視界が悪くなります。室内に寝ている人の半数くらいが気づく激しい雨です。

猛烈な雨(1時間に80mm以上の雨)
息苦しくなるような圧迫感があり恐怖を感じます。車は全く役に立たなくなります。大雨により大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

※気象庁提供

気象情報の種類と基準

■気象情報の種類

種　類	発表の時期
早期注意情報(警報級の可能性)	警報級の現象が5日先までに予想されいるとき
注意報	災害が発生するおそれがあると予想されいるとき
警　報	重大な災害が発生するおそれがあると予想したとき
特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合

■気象台による大雨・洪水警報・注意報の発表基準(雨量)

	警　報	注意報
大　雨	•表面雨量指数基準：　27以上 •土壌雨量指数基準：109以上	•表面雨量指数基準：　12以上 •土壌雨量指数基準：　93以上
洪　水	•各河川に定められた流域雨量指数基準	•各河川に定められた流域雨量指数基準

問い合わせ先一覧

■気象関係

名　称	電話番号
佐賀地方気象台(防災)	0952-32-7026

■行政関係

名　称	電話番号
佐賀市役所	(代)0952-24-3151
〃　三瀬支所	(代)0952-56-2111
〃　富士支所	(代)0952-58-2111
〃　大和支所	(代)0952-62-1111
〃　諸富支所	(代)0952-47-2131
〃　川副支所	(代)0952-45-1111
〃　東与賀支所	(代)0952-45-1021
〃　久保田支所	(代)0952-68-2111
佐賀県庁	(代)0952-24-2111
国土交通省 筑後川河川事務所	(代)0942-33-9131
国土交通省 武雄河川事務所	(代)0954-23-5151
国土交通省 佐賀河川事務所	(代)0952-41-8801

■災害病院

名　称	電話番号
佐賀県医療センター好生館	0952-24-2171
佐賀大学医学部附属病院	0952-31-6511
国立病院機構佐賀病院	0952-30-7141

■警察・消防

名　称		電話番号
佐賀県警察本部		0952-24-1111
佐賀北警察署		0952-30-1911
佐賀南警察署		0952-23-6110
佐賀広域消防局(0952-30-0111)	佐賀消防署	0952-33-6771
	北部消防署	0952-62-3442
	南部消防署	0952-45-6442

■ライフライン

名　称	電話番号
(電話の故障に関することは)	
NTT西日本	局番なしの113 ひかり電話(IP電話サービス)・携帯電話からは 0120-444-113
(電気のことは)	
九州電力送配電佐賀配電事業所	0120-986-937
(上下水道のことは)	
佐賀市上下水道局	(代)0952-33-1313
佐賀東部水道企業団	(代)0952-30-6151
(ガスのことは)	
佐賀ガス株式会社	(代)0952-30-6161

●内水ハザードマップについて　佐賀市建設部　河川砂防課　(佐賀市上下水道局　雨水事業対策室)　TEL 0952-40-7183
(洪水・津波ハザードマップ)　(佐賀市総務部　消防防災課　TEL 0952-40-7013)

非常時持ち出し品チェックリスト

災害時に困らないよう常備しておきましょう。

飲料水
一人一日3ℓが目安。

食料品
乾パン・缶詰・ビスケット・チョコレート等。
※赤ちゃんのいる家庭は、•粉ミルク •液体ミルク •ほ乳びん 等も。

缶切り
多機能なものが便利。

マッチ・ライター
湿気やガス切れに注意。防水マッチも市販されている。

医薬品
消毒薬・胃腸薬・脱脂綿・バンソウコウ・包帯・持病の薬。

貴重品
現金(小銭も)・預金通帳・印鑑・緊急時連絡簿等。
※いざという時、すぐ持ち出せるように保管場所を決めておきましょう。

ヘルメット・防災頭巾
飛来物や落下物から頭を保護するものをすぐに取り出せる所に。

手袋(軍手)
ガレキの撤去や救助に、厚手のものを用意。

ろうそく
流れない様にビニール袋に入れて、保管する。

懐中電灯
夜間、すぐに手の届く場所に。

感染症対策グッズ
マスク・体温計・除菌シート等。

多機能防災ラジオ
情報収集に欠かせない。懐中電灯と一体型や手回しでスマホ充電機能付のものも便利。

乾電池予備
ラジオや懐中電灯に使用するものを少しずつ多めに。

衣類
雨具・下着・ジャンパー・タオル等。

毛布
寝袋や体温を逃がさないサバイバルシート等も重宝。

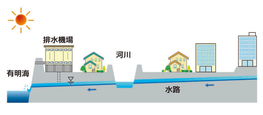
運動靴
避難する時に怪我を防止するために、すぐに取り出せる所に。

編集・発行　佐賀市建設部　河川砂防課
(上下水道局 雨水事業対策室)

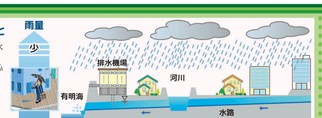
浸水が起こるしくみについて

浸水が起こるしくみ

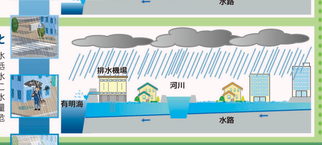
①通常は
河川や水路は灌漑用水を供給するばかりでなく、潤いのある街や生物を育む、なくてはならない存在です。



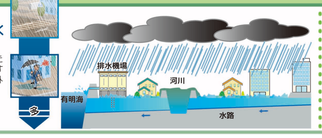
②雨が降りだすと
徐々に河川や水路の水位が上がり始めます。小規模な水路ではあふれる場合があります。



③雨が強く降り続くと
河川の水位上昇により水路は排水不良となり、低い土地等では浸水(内水氾濫)が発生します。この時、潤滑と重なり排水機場の能力を超えた流量になると、更に浸水の危険性は高まります。



④更に雨が激しく降り続けると
河川や水路があふれた、河川堤防が決壊する等の大きな浸水(外水氾濫)が発生します。



※気象庁提供

「佐賀市内水ハザードマップ」の適用範囲

いざという時に備え、事前に確認！

浸水(内水はん濫)のおそれのある時は、「佐賀市内水ハザードマップ」を確認！

河川が氾濫するおそれのある時は、「佐賀市洪水ハザードマップ」を確認！

佐賀市洪水ハザードマップ確認！

避難に関する情報について

水害のおそれがある場合、テレビ・ラジオや市の広報車等で避難の呼びかけをしますので、速やかに避難して下さい。

警戒レベル	警戒レベル3 高齢者等は避難	警戒レベル4 全員避難	警戒レベル5
避難情報等	避難準備・高齢者等避難開始	避難勧告 避難指示(緊急)	災害発生情報
避難行動等	● 避難に時間を要する人(こども・高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	● 速やかに危険な場所から避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	● 既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。

災害の予備知識

あらかじめ災害に対する知識を蓄え、迅速に行動できるようにしましょう。

避難時に注意すること

単独行動は危険なため、警察・消防・水防団の指示に従いましょう。

服装に注意
●動きやすい服装にしましょう。
●長靴は水が入ると動けなくなるため、運動靴等にしましょう。

家の戸締まりに注意
●避難の際は、火の始末と戸締りを行いましょう。
●避難時の持出し品は必要最小限になるようまとめましょう。

荷物に注意
●持ち出す荷物は最小限にしましょう。
●避難時の荷物はリュック等に入れ、できるだけ両手が空くようにします。

状況の変化に注意
●不安を感じたら早めに避難しましょう。
●特に、高齢者・子ども・身体に障がいのある方がお住まいの世帯では、早めの避難が必要です。
●避難のときは警察・消防・地元の防災責任者等の指示に従って行動しましょう。独断での行動は大変危険です。1人で行動せずに2人以上での行動を心がけましょう。

身の回りの安全に注意
●徒歩で避難しましょう。車を使っての避難はかえって危険です。
●1人での夜間の避難は危険です。できるだけ明るいうちに避難しましょう。
●浸水している場所の深さに注意しましょう。水深50cm以上になると歩行は困難になります。
●浸水している場所を歩くときには、棒等でマンホールや側溝等に注意しましょう。
●飛来物に注意しましょう。

3密を避け、分散避難
避難先は学校・公民館などの指定避難所だけでなく
近くの親戚の家
知人の家

簡易水防工法について
簡易水防工法は、ご家庭にある物を使って水の浸水を防ぐ方法です。あくまで小規模な水災で水深の浅い初期の段階で行うものです。危険を感じる前に早めに避難しましょう。

簡易水嚢
40リットル程度の容量のごみ袋を二重にして中に半分程度の水を入れ閉め、出入口等に隙間なく並べて使用します。

簡易水嚢+ダンボール箱
水嚢をダンボール箱に入れ、これを連結して使用します。水嚢だけの場合と比べて強度が増し、中に詰める水嚢も積み重ねて使用することも出来ます。

ポリタンク+レジャーシート
10リットル又は20リットルのポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み、連結して使用します。

止水板
出入り口に水嚢又は土嚢を使って長めの板等を設置し、浸水を防ぎます。

平常時から確認しておくこと

普段から万が一の事態に備え準備しておきましょう。

家族で確認
●自宅や職場が浸水想定区域内に入っているか確認しましょう。
●浸水想定区域内の場合、その場所の浸水想定がどのくらいの深さなのか確認しましょう。
●家族で避難時の行動について話し合っておきましょう。
自分自身がとる行動「マイ・タイムライン」を作ってみましょう。
※マイ・タイムラインとは、大雨や台風といった気象予報で発生を予期できる災害について、自分が取るべき行動をあらかじめ時系列で決めたものです。

情報の確認
●普段からテレビやラジオ、インターネットで、気象情報や災害情報に注意を払いましょう。
●市からの情報に注意し、近所の方々と情報交換しましょう。

避難場所・避難経路の確認
●災害時には自宅に一番近い避難所が使えない事態も考えられますので、近い避難所を2箇所以上確認しておきましょう。
●自宅から避難所まで歩いてみて、周辺の土地が浸水した場合等、避難経路の周囲に側溝や水路等、危険な箇所がないか確認しておきましょう。

持出し品の確認
●避難時の持出し品は、日頃から準備しておき、置き場所を決めておきましょう。
●非常食や飲料水等は、定期的に新しいものと取替えましょう。ローリングストック®で備蓄すると便利です。
※普段の食事に利用する食材を多めに常備して、製造日の古いものから消費し、消費した分を新しく買い足し、いざというときのために備える方法
(飲料水の目安:1人1日3リットル)

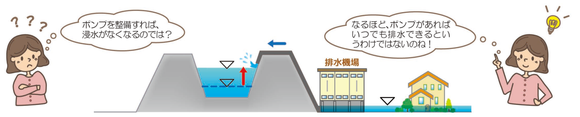
台風の大きさと強さ

台風とは大雨、大風の両方あるいはどちらかを伴った最大風速が約17m/秒を超えて風が吹く熱帯低気圧のことです。
一般に台風の勢力は「大きさ(風速15m/秒以上の半径)」と「強さ(最大風速)」で表わされています。

台風の大きさについて
「大型台風」または「大きい台風」
•風速15m/秒以上の半径が500km以上～800km未満の台風
「超大型台風」または「非常に大きい台風」
•風速15m/秒以上の半径が800km以上の台風

台風の強さについて
「強い台風」　•最大風速33m/秒以上～44m/秒未満
「非常に強い台風」•最大風速44m/秒以上～54m/秒未満
「猛烈な台風」　•最大風速54m/秒以上

ポンプ排水の限界について
ポンプは低い位置にある水を吸い込み高い位置に排水できますが、その能力には限界があります(揚程と排水量)。なお、吐き出し側の河川や水路等の水位が高く、溢水の危険がある場合には、ポンプ排水は制限(停止)されます。



避難行動要支援者の安全のために

高齢者・障がい者・傷病者・妊産婦・乳幼児・外国人など災害時に正確な行動をとりにくい方を「避難行動要支援者」といいます。
このような方たちを災害から守るために皆さんで協力できるようにしましょう。

高齢者・寝たきりの方のために
日頃の備え
避難の際に必要となる道具を備えておき、使えるようにしておきましょう。
災害時には
動ける方は安全な場所に落ち着いて移動し、助けを待ちましょう。
介助が必要な方は助けを求めましょう。
介助者へ
緊急の時はおぶって避難しましょう。
可能であれば複数の介助者で介助しましょう。

避難所はこちらですよ。

肢体の不自由な方のために
日頃の備え
室内の空間を広めにとって、家具の転倒防止対策を行う等、避難経路を確保しておきましょう。
災害時には
あわてて行動しないで、車椅子を安全な場所に止めてまわりの人に助けを求めましょう。
介助者へ
車椅子の階段での介助は2人以上で、上りは前向き、下りは後向きに移動させて下さい。
介助者が1人の場合は、おぶいひも等を利用し、おぶって避難して下さい。

耳が不自由な方のために
日頃の備え
日常から筆記用具を携帯しましょう。
災害時には
メモ等で、正確な情報を周囲の人にたずねましょう。
介助者へ
話すときは、口を大きく開け、相手にわかりやすいようにしましょう。
手話、筆談、身振り等の方法で正確な情報を伝えましょう。

ここは危ないからね。

知的障がいのある方のために
日頃の備え
災害時の行動を日頃から繰り返し話して聞かせ、外での危険な場所を教えておきましょう。
災害時には
家族の人と行動しましょう。もしできない場合は、近所の人に助けを求めることを教えておきましょう。
介助者へ
あわてないように優しい声で指示を出し、手をとって避難誘導をしましょう。

目が不自由な方のために
日頃の備え
白杖は必ず手の届く所に置いておきましょう。
家具等の配置の変更はお才本人に伝えましょう。
災害時には
災害発生時には笛等を吹き、居場所を知らせましょう。
まわりの人に安全な場所までの誘導を依頼しましょう。
介助者へ
災害時には、声をかけ情報を伝えましょう。
誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい半歩前をゆっくり歩きましょう。

内部障がいのある方のために
日頃の備え
通院が不可能になった場合に備え、主治医のアドバイスを受けておきましょう。
薬や治療食の着えについてかかりつけの医療機関に相談しておきましょう。
災害時には
かかりつけの医療機関の状況を確認しましょう。
帰宅できない状況で差し迫った治療の必要がある場合は、最寄りの医療機関か防災関係機関に相談しましょう。
介助者へ
かかりつけの医療機関をはじめ、病院や救護所等の情報収集の手助けをしましょう。